

# 彙報

## 心理學讀書會

五月二十七日午後二時半より實驗場内演習室に於て開催、左の講演があつた。

### ○想像の心理

朝日直樹君

想像の研究として先づ第一編に想像の本質を論じ、第二編に想像の客観的考察としての日本童話を論じた。

従来、想像の概念、本質を論じたものを五つに類別する事ができる。其の一は想像を記憶より區別して其の概念を決定するもの。即ち記憶は過去の經驗を其儘再生する事であり、想像は過去の經驗が部分的に其の結合を換へて再生する事であるとするもの。其の二は、想像を悟性より區別して概念としたもの、即ち悟性は觀念的に、論理的に新しい結合を作つて行くのに、想像の働きは具象的だと云ふに在る。其の三は、現實にあらざるものを想像とする説。其の四は Piaget, Inhelder, Vinet の如く想像過程其のものを分析して概念を定めんとするもの、其の五は、深田教授の説く處にして、即ち、想像の概念を客観的の生産物より定め様とすれば勢ひ他の心的過程との區別が困難になる故、感覺、記憶、想像の區別を意識其ものゝ中に見出そうとするもので、感覺は現在にのみ働き、記憶の意識内容は過去に關係して居り、想像は現在、過去何れにも關係する、換言すれば、時間を超越して居ると言ふに在る。そこで結論として以上大體の説を考察するに、其の何れも

想像の概念として適當であるが、其れ丈け又、何れにも非難すべき點がある。私は想像の概念に感情の高調と言ふ事を加へたいのである。心的作用の中、想像に最近きものは記憶と悟性とである。其の記憶に感情の高調が加はれば自然、結合の工合に變化を來たす。それが想像であり、悟性の如く論理的のものには、感情の高調が入り得ない。感情の高調が加はる所では自然具象的になる。それが想像である。

第二編、日本童話の研究はヴェントの民族心理に従つて童話、説話、傳記、神話の概念を明かにし、日本童話を集めて分類したものである。

## 教育學會例會

五月二十三日午後六時より學生集會所に於て開催、左の講演があつた。

### ○臺灣教育所見

文學博士 小西重直君

○勸規に現はれたる僧堂の教育

柳原愛祐君

## 新著紹介

### 獨逸思想と其背景

文學博士 朝永三十郎著

本書は凡て五つの論文から成立つてゐる。即ち第一篇『神秘説と獨逸思想』、第二篇『理性』の哲學、「人文」の哲學としての獨逸哲學、附、獨逸に於ける「人文國家」の思想』、第三篇『獨逸思想と軍國主義』、第四篇『獨逸の現代哲學と其最近背景』、第五篇『思想上